

	課題分析	授業改善策
国語	・学力調査の結果から、「書くこと」の平均正答率が低かった。特に、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。 ・「話すこと・聞くこと」では、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることに課題がある。	・「書くこと」では、題材設定や書く内容の検討をした上で、自分の思いや考えが明確になるように文章の構成の指導を行う。自分の考えを伝えるための適切な言葉や言葉の使い方、表現の仕方など、記述の仕方を示していく。 ・「話すこと・聞くこと」では、少人数→グループ→学級全体と発達段階に応じて話合いの形態を変えたり、紹介や説明、意見など伝え合うための活動を工夫したりすることで、思考力や想像力を高めていく。
社会	・社会的事象を自分事として捉え、学習を深めていくことに対し、児童によって差が生まれている。一つの意見や考え方に偏ってしまい、多面的に考えたり、様々な資料を調べて思考したりすることに課題がある。 ・学んだことや思考の過程を、自分の言葉でまとめ表現していく力を伸ばすための授業改善が必要である。	・「見方・考え方」を伸ばすため、社会的事象を「比較」したり、「関連づけ」をしたりしながら、思考力を深める授業を展開する。また、教科書だけでなく、タブレットや資料集を有効に活用し、広い見方で思考力を高めていく。 ・自分の考えや思考の過程を友達と共有し、学習を深めるための「対話」の時間を十分に確保し、自己の思考をさらに広げ、学習を深めるための改善を図る。
算数	・数量についての理解や計算の基礎的な技能の習得に困難な児童が見られる。また、文章問題を読み解き、そこから立式して正解に辿り着いたり、図形の性質を正しく理解し、正確に作図したりすることが難しい児童がいる。	・習熟度別のクラスに分かれて、基礎基本の技能を反復して定着させていく。文章問題に関しては、テープ図や数直線図などを基に正確な立式ができるよう繰り返し指導していく。図形に関しては、それぞれの図形の特徴を児童に把握させ、それを基に、作図の仕方を身に付けるよう指導をしていく。
理科	・実験・観察に対して興味関心をもって取り組む児童が多い。一方、何のために実験・観察をしているのかを意識して取り組むことが難しい児童がいる。 ・結果から考えたことをまとめること、新たな疑問を見いだして表現することに課題が見られた。	・問題、予想、計画、観察・実験、考察、まとめの流れを徹底することで、問題解決の過程を意識させ、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。児童自ら調べてみたいと思えるようにするため、事象の提示の仕方を工夫する。 ・予想の段階で、「この実験をすると、どのような結果が出て、何が分かるのか」の検討を付けさせる。関係する見方・考え方を提示したり、考察の書き方を指導したりする。
生活	・考えたことを友達に伝えること、話し合いの活動をするについて肯定的に捉えている児童が多い。事実を絵や言葉で表すことについて、国語で学習したことを基に観点別に表すようにしている。様々な観点から観察したことや見学し	・伝え合いの活動を単元計画に入れ、自分の考えたことを伝えたり友達の考えに共感したりできるようにする。自分の考えの広がりや深まりを実感できるように、伝え合いの活動の方法を工夫する。個人差が大きい部分に関しては、友達の意見

	たことを書くことができる児童と多面的に捉えることが難しい児童がおり、個人差が大きい。 授業中で学習している内容と、これまでの日常生活を関連付けることが難しい。具体的に、1 学年であれば、幼児期の経験との関連付け、2 学年であれば、幼児期および1 学年での経験との関連付け等である。	からも広げていけるようにする。 児童一人一人の気付きの質が高まるように、これまでの経験と関連させていく活動を積み重ねていく。楽しいと感じるだけでなく、活動のよさや大切さに気づき、自分の成長を感じられるような授業展開にする。そのために単元のまとめの活動の充実を図る。
音楽	- 感じ取った曲想と、聴き取った音楽の構造との関わりについて、理解することができるようになってきた。さらに、それらの知識を活用し、音楽的な見方・考え方を働かせて、自分なりの思いや考えをもち表現を深めていくことに課題がある。 - 音楽活動を楽しみながら、自ら課題意識をもち、学ぶ態度の育成が図れてきた。今後、さらに、見通しと振り返りの場を設定し、自ら学びを調整しながら粘り強く主体的に学んでいく態度を育成することに課題がある。	- 児童が知識を活用し、自分なりの思いや考えをもてるように、発問や視覚的情報の提示方法を工夫する。また、視点を明確にした音楽や言語での対話的な学習において、個々の考えをつないだり思考を整理したりし学びを深めていけるように教師の働きかけを工夫していく。 - 題材の初めの音楽との出会いを工夫し、課題意識がもてるようにする。また、児童の思いや意図を技能の取得につなげていくために、視点を明確に提示し、見通しをもち粘り強く、学びを調整して解決に向かえるように支援していく。
図画工作	- 児童が色、形、感触、材料等からイメージを広げて、取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、表現したいことに合わせて、既習内容を生かし、試行錯誤しながらつくれるようにすることには課題がある。 - 安全な道具の使い方について理解が十分でない児童がいる。	- 発想を広げられるように、多くのものに触れる機会を作り発想を促す工夫をしていく。また、児童が互いの活動内容を見合って自分の活動に取り入れられるようにしたり、既習学習の中から何を使えるか吟味し試してみたりする時間を十分に確保する。 - 用具や道具の使い方を段階的に徹底的に指導する。
家庭	- 基礎的基本的な技能を習得することができず、それらの技能を活用して取り組むような課題に苦手意識をもつ児童が見られる。 - 学習したことを振り返り、解決策を考えることができるが、今後の生活に生かそうとする姿勢に課題がある。	- ICT などを活用することで、児童が自身の学習状況に応じて学習を進めることができるような学習環境の工夫をする。 - 題材ごとに学習したことを振り返る時間を充実する。また、学習した内容が生活に与える良い影響に気づかせることで、生活に生かす意欲を高める。
体育	- 運動量を確保するための授業改善や1 時間のめあてを明確にし、指導計画や場の設定を工夫していくことが課題である。また、児童同士で見合ったり、アドバイスし合ったりする学び合いの時間の確保が不十分であるため、一単位時間の時間配分を明確にして計画していくことが必要である。 - 教師が運動における特性やゲームの特性を理解し、児童の実態に合わせて内容を工夫していくことに課題がある。	- 体の使い方や技能ポイント、場の作り方を明確にした学習カードを作成し、児童がめあてをもって学ぶことができるようにする。また、児童の技能レベルが上がるように段階に応じた指導を行っていく。 - 学び合いでは、児童に振り返りの時間を設定する。タブレットを効果的に活用しながら技能分析や作戦を立てる時間を設けることで、個人や集団の変容を見られるようにする。各学年で、運動の特性やゲームの特性、児童の実態を共通理解した上で、場の設定や授業内容を計画し、展開する。

外国語	・積極的に英語に親しもうとする意欲はよく見られる。しかし、自分の思いや気持ちなどを伝える活動では、正しく発音しようという思いが強くなり、会話量が減ってしまうことに課題がある。 ・学習したことを定着させたり、見通しをもって取り組んだりするための授業改善が必要である。	・始めに、ALT の発音を聞いて、繰り返し発音をする活動を取り入れる。その後、スモールトークなどの活動を取り入れ、少人数で話す経験を積み重ね、活動を通して、児童が自信をもって英語に関われるようにする。 ・児童が毎時間の学習の見通しをもてるように、めあてを明確に示すために掲示物を使ったり、学習の流れをパターン化したりする。学習の最後には、振り返りカードなどを活用して学習を振り返り、次の授業への見通しや意欲をもてるようにする。
道徳	校内研究を踏まえて、授業の進め方を改善し、授業の中で、児童が「道徳的価値」について自分を振り返って考え、自分事として捉えられるようになってきた。一方、「対話的な学び」として話し合うことを通して自分と異なる意見と向き合い、「道徳的価値」の理解を深めることは、まだ不十分である。	対話的な学びを通して自分の考えを深め、広げたりするために、①道徳の授業の中でペアでの対話（低学年）、グループでの対話（中学年・高学年）を取り入れるようにする。②対話をした上で、多面的・多角的に考えられるように付箋と模造紙を使った KJ 法により意見の交流をする場を設ける。タブレットの jamboard、オクリンク等を使って意見交流することも考えられる。この意見の交流を通して児童が自分の考えを深め、広げたりすることをねらう。教師が一つの意見にまとめたり、こうあるべきという押しつけをしたりしないよう留意する。